



団体交渉終了PART① 営業職場の未来のために声を出す!

4月1日からびゅうと駅(加茂、亀田)の体制が変わりました

新潟地本は3月14日、地本申7号「びゅうプラザの販売体制の見直しに対する申し入れ」、申8号「駅業務委託のさらなる推進に対する申し入れ」の団体交渉を行いました。

どちらの交渉においても、今後の営業職場の将来ビジョンを示すよう求めましたが、支社としての将来像が示されることはありませんでした。また、いずれの効率化施策においても個人への業務量増、お客さまへのサービス低下、社員の働き甲斐の低下はないと回答がありました。

日々現場最前線で奮闘しているみなさん!本当にそうでしょうか!施策が実施された後も、しっかりと検証して声を出していかなければなりません。社員数の推移やエルダー雇用先の実態を鑑みれば、今後も効率化施策が実施されていくことは明らかなです。しっかりと現場の声をぶつけ、共通の課題に対しては労働者が一つになって望む職場を目指しましょう。

今団体交渉に関して2回に亘り交渉の特徴点と組合側の主張を掲載します。

申7号 びゅうプラザの販売体制の見直しに対する申し入れ

交渉における特徴点と組合の主張

施策実施における要員増減

酒田駅	びゅう営業	△3
長岡駅	びゅう営業	△2
新潟駅	びゅう助役	△1
	びゅう営業	△7
燕三条駅	びゅう営業	△1
上越妙高駅	びゅう営業	△1
	合計	△15

【施策実施日2017年4月1日】

- びゅうの将来像は、全社的にV T S (株)びゅうトラベルサービス)となっていく。しかし新潟支社においては、まだ具体的計画はない。
- びゅうプラザ新潟営業△7により、業務量増やサービス低下はなく、働き甲斐は向上する。
- △7の内訳は、エージェント担当△3、団体担当△1、チーフ△1、発券担当△1、審査・経理担当△1である。審査・経理担当は代務に入らなくなり担務に専念できるようになる。

- 駅からの「取り次ぎ業務」は今後も行うが、エージェント担当がいなくなるため、駅側が券類をびゅうに取りに来るかびゅう管理者が対応する。
- 来年度に迫った新潟駅連続立体交差事業に伴うびゅうプラザ新潟の店舗移転について、レイアウトなどのビジョンは全く示せない。
- 渉外担当からエージェント担当とした効率化施策においても、びゅう予約センター等の活用により店舗来店型からネット販売等へ推移し、来店者減により業務量減少すると回答していたが、全く現実とは違う。